

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際性を活かした研究教育システムを確立する。	→国際化社会に対応したカリキュラム編成、海外の学会発表数、海外の研究者との共同研究への参加数、海外研修会への参加数。	B	B			
2. 博士課程後期課程大学院生の海外における研究活動の活発化を図る。	→本学大学院海外研究助成金制度の申請者数。	B	B			
3. 海外からの研究者の受け入、および専任教員の海外派遣を促進する。	→海外からの研究者の受け入れ数、専任教員の海外派遣数。	B	C			
4. 外国語を母語とする専任教員を雇用する。	→外国語を母語とする専任教員数。	B	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) <span style="color: orange;">いづれかにチェックしてください。</span> →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (方針) 国際性を活かした研究教育システムを整備し、大学院生の海外における研究活動の活発化を図る。 2010年度の海外からの受け入れ学生は正規学生が4名と交換学生が1名であり、在籍学生数の2.4%と0.6%にとどまっており、海外への派遣学生数は0名、2011年度もその状態に大きな変化はなく、正規学生は3名となっている。目標4に掲げた外国語を母語とする専任教員の雇用の面では、2011年4月に文学言語学専攻で英語を母語とするネイティブの教授が着任した。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。 文学研究科の海外への派遣学生数は長期・短期とも0名で、派遣による国際交流は実現していない。一方、学会発表や資料調査による国際交流の面では活発な動きが見られる。2010年度に後期課程在学者および大学院研究員の海外における研究活動の支援を目的として始まった「大学院海外研究助成金」制度に対して、12の研究科全体で30名が採用されたが、そのうちの6名が文学研究科からの申請者であった。
★ その他	特になし。

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	5	6	5	4	4	3	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	3	4	2	1	1		・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	2.5	3.2	2.7	2.4	2.4	1.9	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	1.5	2.1	1.0	0.6	0.6		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—				
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0		・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)

協定校と相互交流数(学生・教員)

国別国際交流協定締結先機関数

国別留学生数(学部別)の経年変化

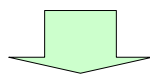
☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目 7.0.1		
★ 小項目 7.0.2		
その他		

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】《次年度に向けた方策》	
★ その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

○研究科として適切な目標設定と非常に具体的な現状説明で、その進捗状況も優れています。海外からの研究者受け入れや派遣について前年度のBからCに評価を落としています。数字的には変化がないので、従来と同じであればBにしておいてよいのではないのでしょうか。

## 【学内委員】

○海外への学生の派遣、海外への教員の派遣、海外からの教員の受け入れに関して、実績が全くないということが気になります(評価指標データによる)。少しずつでも結果を残していくことが求められます。

○海外留学ではGPA評価を留学の条件にしているところが多くあります。教員がGPA評価を理解し、今までの評価の基準を変えないと留学件数は増えないと考えられるので、多くの教員がGPA評価を理解する必要があります。

○昨年度、学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述をされています。それが今年度反映されていないようです。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明かと思えます。

・外国からの学生の受け入れについては一定の成果が認められますが、学生の外国への派遣の実績がありません。また、人的国際学術交流(受け入れおよび派遣)が少しずつでも実現できるような方策を考える必要があるでしょう。

・院生の海外派遣・留学は専攻によっては必須と考えられますので、早期に実現可能な方法を院生に示す必要があります。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 2009年度に設定した「目標」3の2010年度進捗評価をCからBに修正する。文学研究科では、毎年客員教員、客員研究員として、吉林大学および蘇州大学から本学に派遣された教員が、授業への参加や自身の研究テーマに関する講演・発表といったかたちをとって、専任教員や院生との学術交流を図っている。文学部での受け入れ体制をとっているため、評価指標データに数値としては反映されていないが、実質的な海外からの研究者の受け入れは実践されている。